

The Relationship between the Growth Hormone/Insulin-like Growth Factor System and the Histological Features of Nonalcoholic Fatty Liver Disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千嶋, さやか メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032181

主論文の要旨

The Relationship between the Growth Hormone/Insulin-like Growth Factor System and the Histological Features of Nonalcoholic Fatty Liver Disease

(邦文訳:NAFLDにおけるGH-IGF-1系と肝組織所見の関係)

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導:徳重克年教授)

千嶋さやか

Internal Medicine Vol.56, No. 5, 2017 に掲載

【要 旨】

成長ホルモン分泌不全症 (growth hormone deficiency;GHD)は非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease;NAFLD)を惹起し、成長ホルモン (growth hormone;GH)補充がNAFLDの肝繊維化を改善する。GHDを伴わないNAFLDでもGH/インスリン様成長因子 (IGF-1)系との関連が報告される。本研究はNAFLDの組織学的重症度とGH/IGF-1 (insulin-like growth factor1)系の関係を明らかにすることを目的とした。

肝生検を行った222人のGHDを認めないNAFLD症例を対象に末梢血GH・IGF-1・IGFBP-3を測定し、肝疾患の組織学的重症度との関連を評価した。性・年齢の影響を除外するため各症例のIGF-1の標準偏差 (standard deviation score;IGF-1SDS)を算出した。比較のため55人のC型肝炎ウイルス関連肝疾患症例を同様に評価した。

NAFLDでは肝繊維化が高度な症例でGHが高値、IGFBP-3, IGF-1SDSが低値となる傾向が見られた。脂肪沈着が高度な症例ではGHが低値、IGFBP-3が高値となる傾向が見られた。HCV症例では同様な傾向は見られず、GH/IGF-1系の異常自体がNAFLDの進展に関与している可能性が示唆された。